

マタイによる福音書3章2節 「悔い改めなさい」

### 1A 福音の始まり

1B 心からの悔いと思いの変革

2B 罪の赦し

### 2A 御国の接近

1B 王の入り用

2B 救いと裁き

### 3A 悔い改めの実

1B 生活の変化

2B 砕かれた心

## 本文

マタイによる福音書3章を開いてください。私たちの聖書通読の学びは、マタイの2章まで来ました。午後に3章全体を一節ずつ、じっくりと取り組みたいと思います。今朝は2節に注目します。「悔い改めなさい。天の御国が近づいたから。」

### 1A 福音の始まり

これは、バプテスマのヨハネの言葉です。これより先に、神の言葉が語られたのは四百年以上も前です。ペルシヤ時代に、預言者マラキが主の言葉を語りました。それから、ずっと主は沈黙を保っておられました。ペルシヤはギリシヤに破れ、ギリシヤ時代にユダヤ人によるハスモン朝が始まるも、ローマが現れました。そして、ローマ帝国が始まり、ユダヤ人たちは数百年前まで語られていた預言の言葉、また律法を携えて生きていましたが、終わりの日に自分たちを救う、メシヤが現れると強く信じていました。そして、ついに主の言葉が語られたのです。その初めの言葉が、「悔い改めなさい。」です。

### 1B 心からの悔いと思いの変革

「悔い改めなさい」・・・これが、神が私たちに願われている初めに行なうことです。自分の人生の中で道を外れています。自分の中にあるネジが外れて、別のところにさまよっています。自分を造り、この世界を造られた神がおられるのに、その神のかたちに似せて造られたのに、そこから離れてしまっています。そこで自分の人生の船のかじ取りをしなさいといけません。主のところに帰らないといけません。思いを変えて、心から自分がしてきたことを悔いて、一気に神に自分を明け渡さないといけません。これが、悔い改めです。

悔い改めとは、思いの部分と心の部分があります。思い直しがあります。自分がこれまで思っ

いたことを、一気に変えるのです。そして、心から願わないといけません。心から、自分のやり方を捨てて、主に立ち返るのです。多くの場合、悔い改めたとと言っても、思いを変えることと、心から悲しむことのどちらかしかやらないことがあります。自分のしたことについて、いつも後悔し、自分を責め、どうしてこんなことをしてしまったのだらうと悔います。けれども、思い直していないのです。なので、感情面ではたくさん悔いているのですが、思い直すことをしていないので、同じことを繰り返してしまいます。その反対に、思いは変えているのですが、その罪に対して心からの悔いがない場合があります。イエス様のことについて、神のことについて、それを一つの信条、あるいは原則のようにして聞いて、心から自分を捧げている訳ではないのです。知的に思いを変えたのかも知れませんが、心は変えておらず、人は結局、自分の心に思っていることをやっていますから、言っていることと、やっていることがちぐはぐになってきます。ですから、思いにおいて、そして心において、私たちは自分のうちの全てをもって、主なる神のところに帰ります。

預言者たちは、「衣ではなく、心を裂きなさい」と言いました。「ヨエル 2:13 あなたがたの着物ではなく、あなたがたの心を引き裂け。あなたがたの神、主に立ち返れ。主は情け深く、あわれみ深く、怒るのにおそく、恵み豊かで、わざわざを思い直してくださるからだ。」日本人たちは、悲しみを抱いた時に、心に押し込む習慣がありますが、中東の人たちは違います。当時のユダヤ人は、悲しみや嘆きを表現するのに、衣を引き裂きました。けれども、そうしたことさえ表向きだけのものになりがちです。私たちの悔い改めが、心からのもの、また思いを一新させるものになりたいです。

## 2B 罪の赦し

そして、悔い改めるといことが、今のヨエルの預言のように、神の憐れみを受け、罪が赦され、罪からの救いを得る第一歩であります。ペテロが、彼の説教を聞いて心刺されたユダヤ人たちが、「私たちはどうしたらよいのでしょうか。」と尋ねたので、こう答えました。「使徒 2:38 悔い改めなさい。そして、それぞれ罪を赦していただくために、イエス・キリストの名によってバプテスマを受けなさい。そうすれば、賜物として聖霊を受けるでしょう。」

私たちは、しばしば誤解しているのですが、赦しというのは、悔い改めなければ成立しません。人が誰かに害を与えているのですが、その人がその行ないを改め、また悔いていないのなら、その継続して行なっていることに、どうやって赦すことができるのでしょうか？ 忍耐して、愛していくことはできます。けれども、その罪を認めて、悔い改めることなしに、その人のことを赦したいと思っても、赦しようがありません。赦さないといけないことを話すと、例えば、家庭内暴力を受けている人から、「どうやったら、相手を赦すことができるのでしょうか？」という質問を受けます。答えは、「赦すことはできません」です。もし、その時点で赦したら、漢字の異なる、許容するほうの「許し」になってしまいます。悪は許容することはできません。しかし、その人がどんなに悪を自分に対して行なったとしても、その人が悔いた心を持って、謝罪して来るのであれば、その時はどんなことをされてきたとしても、心から全ての罪と悪を赦さないといけないのです。神の義があるからこそ、罪の

赦しもあります。神に対しては、なおさらのことです。悔い改めがあって、それで神が豊かな憐れみを注ぎ、罪をすべて赦してくださいます。

イザヤが預言しました、「55:6-7 主を求めよ。お会いできる間に。近くにおられるうちに、呼び求めよ。悪者はおのれの道を捨て、不法者はおのれのはかりごとを捨て去れ。主に帰れ。そうすれば、主はあわれんでくださる。私たちの神に帰れ。豊かに赦してくださるから。」そして、この神の慈愛が悔い改めに導くと、パウロは言いました。「ローマ 2:4 それとも、神の慈愛があなたを悔い改めに導くことも知らないで、その豊かな慈愛と忍耐と寛容とを軽んじているのですか。」そして、悔い改めることによって、救いを手にすることができます。「神のみこころに添った悲しみは、悔いのない、救いに至る悔い改めを生じさせます・・(2コリント 7:10)」

## 2A 御国の接近

そして、悔い改めなければいけない理由を、バプテスマのヨハネは、「**天の御国が近づいたから**。」と言っています。ここで大事なのは、「天国に行けるから」と言っていないことです。天国のほうに行くのではなく、天の王国が近づいたからと言っているのです。ここで言っている天の御国は、死んだ後に行く、どこかの樂園のようなところではありません。この自分が踏んでいる地面のところに、天に王座を持っておられる神ご自身が来られるということです。神の支配する国が、メシヤ、キリストによってあなたがたに臨みますということです。

## 1B 王の入り用

マタイによる福音書には、福音が「御国の福音」と書かれています(4:23)。その言葉を聞いたユダヤ人にとって、現実にこの地上でメシヤが王として支配されるところであります。預言者たちが前もって語りましたが、その現実が自分たちのところに臨むこと、自分の生活に厳に神がおられ、神が王となっておられることを示しています。

イザヤが 40 章以降に、エルサレムに慰めが来ること、メシヤが来ることを預言しています。それを、「良い知らせ」、つまり福音として表現しています。「40:9-11 シオンに良い知らせを伝える者よ。高い山に登れ。エルサレムに良い知らせを伝える者よ。力の限り声をあげよ。声をあげよ。恐れるな。ユダの町々に言え。「見よ。あなたがたの神を。」見よ。神である主は力をもって来られ、その御腕で統べ治める。見よ。その報いは主とともにあり、その報酬は主の前にある。主は羊飼いのように、その群れを飼い、御腕に子羊を引き寄せ、ふところに抱き、乳を飲ませる羊を優しく導く。」神が王として来られるということ、そして神が羊飼いのようにイスラエルの民を養ってくださること、それが福音だと言っています。

ですから、良い知らせという時に、自分に何か与えられるという自分中心の考えであれば、それは勘違いの良い知らせです。神の福音、神の良い知らせは、自分に何か与えられるという自分

中心ではなく、自分が神に捧げられるという神中心なのです。「これこれをしてもらわなかったから」とか、「これこれをされたから」とか、いつも自分を中心にしていたら、そこには福音がありません。私たちはあまりにも、自分を満ちし、自分を愛し、自分が自由にするという自己中心に生きることが、幸せの道であると教えられてきました。しかし聖書は、人間の幸せというものは、いかに与えられるかというところで推し量られます。誤ったことに自分を捧げているのであれば、不幸になります。自分の欲望に捧げたら不幸になります。けれども、身も心も、真の生ける神に捧げたら、それこそが幸いの道です。天の御国には、そのような至福があります。

## 2B 救いと裁き

そして天の御国、あるいは神の国には、神の正義があります。王に特徴的なのは正義です。正しく治めることです。そして平和あるいは平安があります。正義をもって治めてくださるので、人々は平安に生きることができます。

私たちはこれから、天の御国の王であられる方、キリストが現れて来るところを見ます。イエス様は、御国の福音を宣べ伝え、あらゆる病を治されましたが、山に上り、群衆のうちから弟子たちを近づけて、そして福音を語られました。それが、神の義に基づく御国の話でした。霊にあって事欠いている者は幸いだ、天の御国はその人のものだから。悲しむ者は幸いだ、その人は慰められる。柔和な者は、地を受け継ぐ。義に飢え渴いていたら、満たされる。このように語られ、パリサイ人や律法学者の義にまさらなければ、天の御国に決して入れないと言われました。天の御国には、正義があります。悩んでいる者、自分に悔いている者、へりくだっている者、義に飢え渴いている者、心を清くしている者、そういった者たちには救いを与えます。そして、高ぶっている者、悔い改めない者、不義の中に留まっている者、汚れている者には、裁きを与えられます。同じ王なるキリストなのですが、その義が救いにもなるし、また裁きにもなります。

パウロが話しました、「ローマ 14:17 なぜなら、神の国は飲み食いのことではなく、義と平和と聖霊による喜びだからです。」ですから、神の国が近づいたということは、自分自身を捨て、へりくだり、悔い改めている中でそこに臨むということです。

## 3A 悔い改めの実

バプテスマのヨハネの宣教に対して、ユダヤ全土、エルサレム、ヨルダン川沿いの全てのところから人々がやって来たとありますが、エルサレムからパリサイ人やサドカイ人もやって来たとあります。けれども、ヨハネは「まむしのすえたち。だれが必ず来る御怒りをのがれるように教えたのか。」と言っていますね。それで、こう言いました。「3:8 それなら、悔い改めにふさわしい実を結びなさい。」そう、悔い改めたのなら、生活に変化が出ているはずなのです。

## 1B 生活の変化

ルカによる福音書には、実に具体的に悔い改めるための道筋をヨハネが助言しています。下着を二枚持っている者は、一つも持たない者に分けなさい、食べ物もそのようにしなさい。取税人には、決められたもの以上は取り立ててはいけない、兵士たちには、力づくで金をゆすつてはいけない、無実の者を責めるな、自分の給料で満足しなさい、と言っています(ルカ 3:10-14)。とても具体的です。それぞれの人に、それぞれの形で悔い改めの実を見ます。

悔い改めというのは、必ず変化を見ます。聖霊の働きには、悔い改めが必ず含まれ、そして実を結ばせます。そこに罪の赦しがあり、救いがあります。パリサイ人シモン家で、イエス様のところに来た不徳の女のことを思い出してください。「この女の多くの罪は赦されています。というのは、彼女はよけい愛したからです。(ルカ 8:47)」よけい愛しているという行ないがあって、その中に彼女の罪が多く赦されたことを現しているのです。取税人ザアカイもそうでした。彼は財産の半分を貧しい人に施しますだまし取った物は四倍にして返します、とイエス様に言いました。するとイエス様は、「きょう、救いがこの家に来ました。(ルカ 19:9)」と言われました。彼が貧しい者に施す、だまし取ったものを四倍にして返す、というところに、確かに彼が救われていることが現れていたのです。

これは、行ないによって救われるということではありません。そうではなく、自分がへりくだって、罪を認め、心から悔いて、それで思い直す、主に立ち返ったので、主がその心を聖霊によって一新し、そうしたことをしたいと願わせるようにされているからです。真実な信仰には、必ず行ないが伴うのです。多くの方が、恐れによって行動に移さないでいます。自分の生活に変化が与えられることを恐れます。けれども、どうか聖霊のそうした促しに、素直に導かれてください。そこには、真実な喜びと平安があります。

## 2B 砕かれた心

そして、悔い改めの実におけるもう一つの徴は、砕かれた心です。「詩篇 51:17 神へのいけにえは、砕かれたたましい。砕かれた、悔いた心。神よ。あなたは、それをさげすまれません。」自分が心を痛み、砕かれています。

それは一つに、主の心に対して傷を与えていることについての悔いです。「51:4 私はあなたに、ただあなたに、罪を犯し、あなたの御目に悪であることを行ないました。それゆえ、あなたが宣告される時、あなたは正しく、さばかれるとき、あなたはきよくあられます。」多くの人は、自分が罪を犯して、神から傷を受けるのではないか、神から怒られるのではないかと心配します。けれども真実は逆です、自分自身が神に罪を犯すことによって、神の心が痛み、傷つくのです。神に対して、自分を愛しておられる方に対して、その命令に反することを行なえば、神の心は痛みます、悲しみます。そのことについて、自分自身が悔いるのです。

次に、人々に対しても悲しみや怒りをもたらします。罪は自分だけのものと考えがちです。例えば、自殺を考えてください。殺しているのは自分だけ、だから自分だけがその行為に対する結果を被ると考えがちです。しかし違います、ご遺族の方々がいかに、自分たちを責め、彼らに深い悲しみを残すか知れません。自分のしていることは、必ず他の人々に対して傷を残します。人々に傷をもたらしたことに對して、自分の心は痛みます、砕かれています。

それから、何よりも、神を知らない人々が主の御名を侮ることが起こります。ダビデがバテ・シェバとの姦淫の罪、そしてウリヤを殺した殺人の罪を告白しました。するとナタンはこう言いました、「主もまた、あなたの罪を見過ごして下さった。あなたは死なない。しかし、あなたはこのことによって、主の敵に大いに侮りの心を起こさせた・・(1サムエル 12:14)」どんなに数多くのキリスト者が良い行ないによって証しを立てても、一人の悪を行なった者によって、それがキリスト教であるというレッテルを人々は貼ることになります。そして、イエス様を信じない理由として、キリスト教徒と言われている者たちが行なったとされる、悪いことについてであります。

ですから、自分自身が行なったことの責任を思う時に、心が砕かれるのです。しかし、主はそれをしっかりと受け止めてくださります。その魂を受け入れてくださいます。そして、豊かな憐れみによって慰めてくださいます。悔いのない、救いをもたらす悔い改めを与えてくださいます。そうです、救いの喜びに満たしてくださいます。砕かれた心に聖霊が注がれて、神の恵みの一歩を踏み出すことができるようにしてくださいます。